

# 学習指導要領を具体的に位置づけた

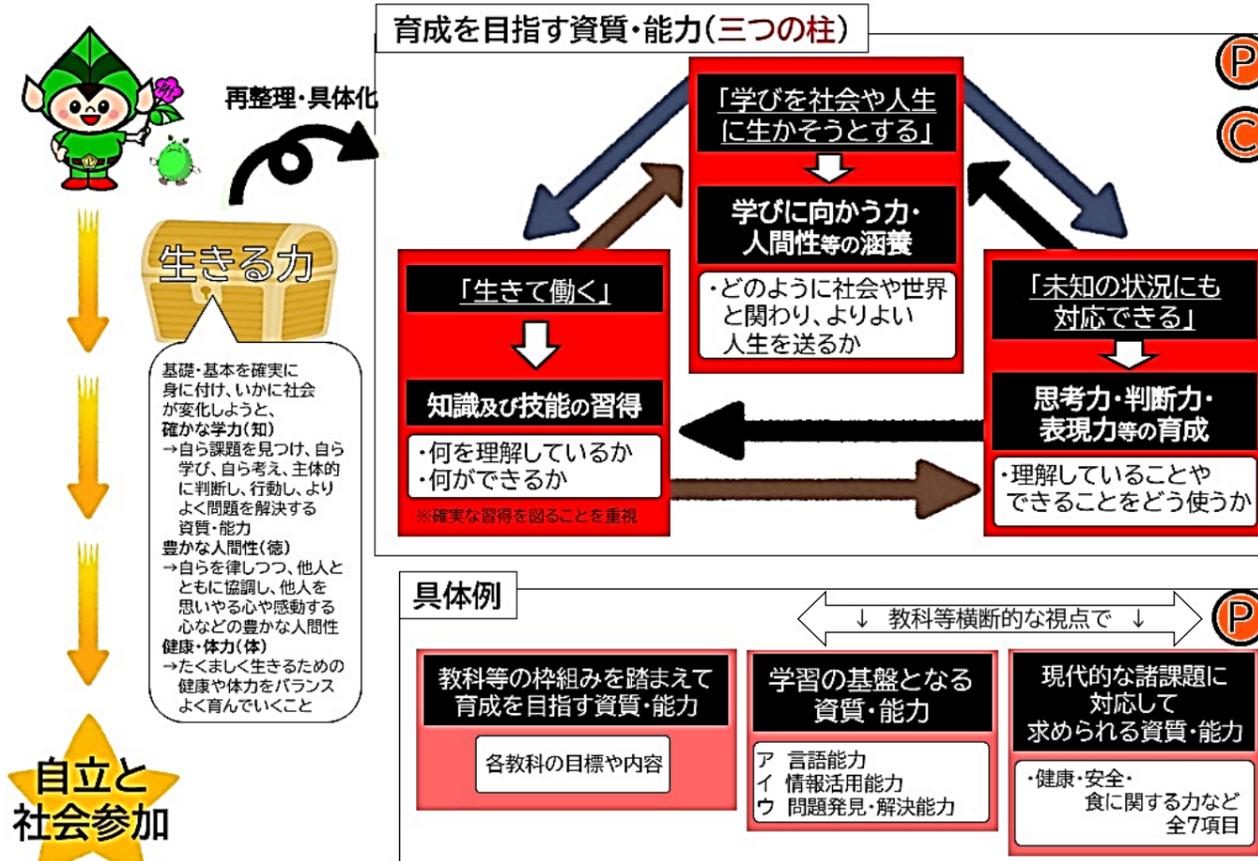
## 学習指導案 記述要領【作業学習】

令和7年度 大分大学教育学部附属特別支援学校

### 三つの柱の考え方と本校の定義

学習指導要領解説総編に、学習の過程を通して相互に関係し合いながら育成されるものであるということに留意が必要と明記されている。本校はめあてを三つの柱ごとに立てて観点別の評価を行うが、それらを独立した柱と捉えてはいない。あくまで、指導上それぞれを明確にするために抽出して挙げている。

知識及び技能	他者(教師・友だち・教材教具)から学ぶ、未知の課題を解決するための基盤となる具体的な教科の指導内容やそれらを習得したと判断できる技能的な姿
思考力・判断力・表現力等	具体的状況の中で習得した知識及び技能を活用し、思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する姿
学びに向かう力・人間性等	知識及び技能の習得や活用の仕方を身につけるとい学習の目的に向かって自ら進んで活動する姿



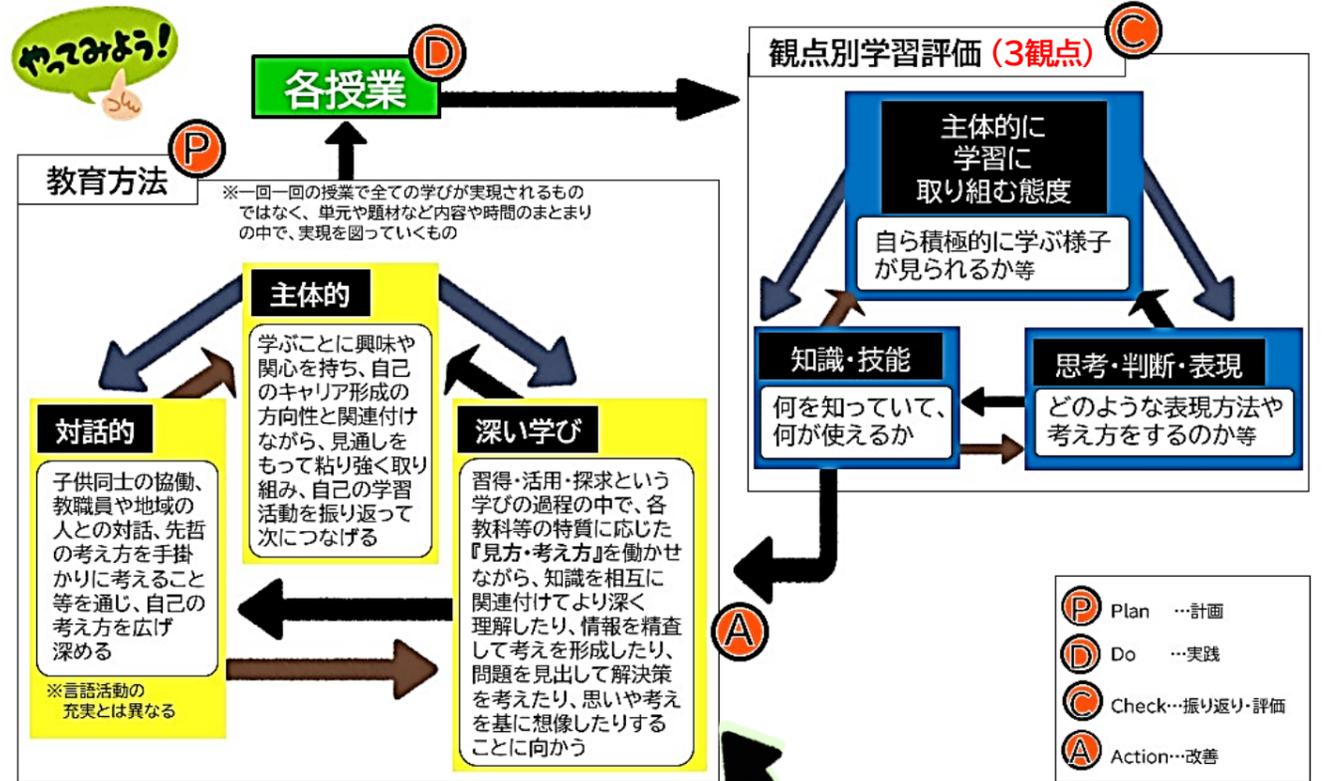
### はじめに

この授業(単元、題材)は、

- 自立と社会参加に向けた本人・保護者・教師が思い描く生徒の将来のために必要な力を身につけられる学習です
- 生徒が主体的に活動し、自ら学び、表現し、認められる学習活動になっています
- 指導を適切に評価・改善でき、生徒の学びの過程を重要視しています

### 三つの柱のめあての考え方

知識及び技能	場面(教材)+わかること+できた姿
思考力・判断力・表現力等	具体的状況(未知の課題に取り組む時の具体的な状況)+表出像(思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する児童生徒の姿)
学びに向かう力・人間性等	題材の中で身につけた指導内容を繰り返し適切に活用する姿を記述(題材計画に授業で想定される子どもの主体的な姿を具体的に記述する)



### 授業改善の観点(どのように学ぶか)

- 主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- 対話によって自分の考えなどを広げたり、深めたりできる場面をどこに設定するか
- 学びの深まりをつくりだすために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか

## 入力に関する事項

- ※表題のみ 14 ポイント、それ以外はすべて 10.5 ポイントのフォントサイズで記述
- ※枠となる部分はすべて「MSゴシック太字」、それぞれの指導案で入力することは「MS明朝」
- ※場面設定で生徒の位置を示すこともあり、○男、○女の記載を廃止し、アルファベットのみで示す
- ※数字は、一桁は全角、二桁以上は半角で入力する(授業の日時に用いるものはすべて全角で入力する)

## 作業学習の特徴と留意点

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

とりわけ、作業学習の成果を直接、児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも、児童生徒の働く意欲を培いながら、将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。

作業学習の指導は、中学部では職業・家庭科の目標及び内容が中心となるほか、高等部では職業科、家庭科及び情報科の目標及び内容や、主として専門学科において開設される各教科の目標及び内容を中心とした学習へとつながるものである。なお、小学部の段階では、生活科の目標及び内容を中心として作業学習を行うことも考えられるが、児童の生活年齢や発達段階等を踏まえれば、学習に意欲的に取り組むことや、集団への参加が円滑にできるようにしていくことが重要となることから、生活単元学習の中で、道具の準備や後片付け、必要な道具の使い方など、作業学習につながる基礎的な内容を含みながら単元を構成することが効果的である。

作業学習で取り扱われる作業活動の種類は、農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどのほか、事務、販売、清掃、接客なども含む多種多様である。作業活動の種類は、生徒が自立と社会参加を果たしていく社会の動向なども踏まえ、地域や産業界との連携を図りながら、学校として検討していくことが大切である。

作業学習の指導に当たっては、以下のような点を考慮することが重要である。

- (ア)児童生徒にとって教育的価値の高い作業活動を含み、それらの活動に取り組む意義や価値に触れ、喜びや完成の成就感が味わえること。
- (イ)地域性に立脚した特色をもつとともに、社会の変化やニーズ等にも対応した持続性や教育的価値のある作業種を選定すること。
- (ウ)個々の児童生徒の実態に応じた教育的ニーズを分析した上で、段階的な指導ができるものであること。
- (エ)知的障害の状態等が多様な児童生徒が、相互の役割等を意識しながら協働して取り組める作業活動を含んでいること。
- (オ)作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習時間及び期間などに適切な配慮がなされていること。
- (カ)作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れと社会的貢献などが理解されやすいものであること。

学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 33、34頁 より引用

## 主体的・対話的で深い学びの実現と3つのポイント

(中教審答申)「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことであり、学校教育における教員の意図性を否定するものでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉え【下記③】ながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方【下記①】を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくこと【下記②】である。

- ①「資質・能力」育成を目標とした教育方法の刷新
- ②「授業研究」を中心とした自律的・創造的な取り組み
- ③子供の「学習」と「知識」に関する事実に基づいて教育方法を構想・実践する

## 指導案で使用する言葉について

ひらがな で記述する言葉	漢字 で記述する言葉
障がい よさ まね わかる 子ども できる かかわる きまり ほしい そろえる 片づけ そばに たたく すべて はじめ(初めても始めも) おおむね 指さす ~だす(直前にある言葉をはじめる時) もの(形や対象が不特定のものに使用する時) つくる(形式名詞に対して使用する時) もつ(興味など目に見えないもの) つける(気など目に見えないもの)	言葉 一人一人 見通し 通して 出来事 取組(名詞で使用する時) 一人、二人など概数 蹴る 貼る 事柄 関する 次に ~時 ~出す(中にある対象を外に移す時) 物(特定の形ある物に使用する時) 作る(形のある規模が小さい物に対して使用する時) 持つ(荷物など目に見えるもの) 付ける(シールなど目に見えるもの)
用語の使い方を統一	用語の意味を共通理解
活かす→生かす 桁→位数 教員→教師 手掛かり→手がかり くりかえし→繰り返し 初めに→はじめに はじめる→始める ~したあと→~した後 障がいを持つ→障がいのある	金銭 …お金そのもの 金額 …表記や言葉で示されたもの 代金 …そろえ終えた金銭 そろえる…ちよどの金銭の時に使用する 作る …多めの金銭の時に使用 時刻 …時計が指し示しているその時のこと 時間 …ある時点とある時点の間の長さを表す 長さ …2点間の距離を表す
※「障害→障がい」のように、学習指導要領とすべて同じにはしていません。必要に応じて随時追記します。	

出典:学習指導要領・附属特別支援学校内規集

## 指導案で統一する書式について

句点(.)を付ける時	改行する時の留意点
名詞の列挙の時と題材目標、本時のめあて以外は付ける。	文字の左端を合わせる。 できれば、単語の途中で改行しない。
指導案中のすべてにおいて	人権に配慮した表記
使役・否定の言葉は使用しない。 (物に対してであれば使用してもよい) (●●を▲▲に対応させ など)	「してやる」「与える」といった上下関係の上の言葉ととれる言葉。 四肢を含んだ言葉(手が足りないなど)

## 文法や単語の正しい表現方法とその使用について

- 「～たり、～たり」…並列、列挙で使用し、極力乱用は控える
- 「疑問詞(なに、だれ、どこ、いつ)+か」…なにか持っていくものはありますか?
- 「疑問詞がつかない文+かどうか」…自分からするかどうか様子を見る
- 「間違う」…正しい状態から外れていること
- 「間違える」…AとBを取り違えること

## 本校の考えから極力使用を控えてほしい言葉

- 意識する …何をどうしたらよいか、どのようになつたらよいかが見えない。
- 集中する …定義やその姿が人によって異なる。また、課題解決の手法として有効なことが少ない。
- してもらおう くれる …児童生徒の主体的な姿を目指す教育実践に沿っていない。



**記述要領**

〇〇部「作業学習」学習指導案 ゴシック14P 太字

「…」スペース 実際を使う時は置換で「」を「」にしてください

日時：令和〇年〇月〇日 ( )  
 □：□□～□：□□  
 場所：〇〇部□□  
 対象：〇グループ□名  
 授業者：〇〇\_〇〇  
 〇〇\_〇〇

明朝10.5P

そろえる

1 単元について 明朝10.5P

(1) 単元名□□

□■□■□■□■□■□■□■□■

□■□■□■□■□■□■□■□■ 改行

(2) 本グループの生徒の実態と作業種目について

□■□■□■□■□■□■□■□■

(3) 単元計画

		単元			
		題材①	題材②	題材③ (本題材)	題材④
時数					
題材の概要					
中心となる内容	A				
	B		明朝10.5P		
配慮的な内容	A				
	B				

□■□■□■□■□■□■□■□■

2 本題材について

(1) 題材名□□

□■□■□■□■□■□■□■□■

(2) 本題材の位置づけと教材を通して指導すること

**記述の視点**

1 単元について

(1) 単元名 \*用いる手法 + 生産する物

例：クラフトテープの平織りによるトートバッグ作り

※どのような種目を行うかがわかるように、「どのような作り方で」、「何を生産するのか」を記述

(2) 本グループの生徒の実態と作業種目について

※作業学習における経験や自主・持続性、確実性に関する課題など、グループ全体の実態を記述し、各教科等を合わせた指導で指導を行う妥当性も併せて記述する

※本校で設定している「作業種目検討の視点」と照らし合わせ、選択した作業種目のよさ(作り方、原料、規格があることなど)を記述する

※単元に含まれている「配慮的な内容」とそれらを指導するための活動についても記述する

(3) 単元計画

		単元			
		題材①	題材②	題材③ (本題材)	題材④
時数					
題材の概要				単元全体の展開を明確にするために、活動のまとまりを各題材で分けて示す	
中心となる内容				単元で対象者に指導する中心となる内容の教科名、段階、領域、内容を学習指導要領から引用して示す	
配慮的な内容				単元で対象者に指導する配慮的な内容の教科名、段階、領域、内容を学習指導要領から引用して示す	

2 本題材について

(1) 題材名 \*教材 + 主な指導内容 + 投げかけ表現

例：でき具合を見直しながら分担した作業を決まった仕方進め、注文を受けたトートバッグを作ろう

※どのような内容を指導するかがわかるように記述するとともに、どのような課題で作業をするのかもわかるように、「作業課題」も示す

(2) 本題材の位置づけと教材を通して指導すること

※単元全体の系統性やその中での本題材の位置づけの説明と本題材における指導内容と作業課題との関連を記述する



3 題材目標 ※「知」は知識及び技能、「思」は思考力・判断力・表現力等、「学」は学びに向かう力・人間性等、「配」は配慮的な内容を示している

生徒	題材目標	学習指導要領の扱う内容
A	知 二次で習得する中心となる内容にかかわるすべての知識とそれらを習得したと判断できる技能的な姿を包括した表現で記述する	〇〇学部 〇〇段階 A (領域) 【知識及び技能】 ア (イ) ～～
	思 A3資料「4 題材計画」の三次の最後の時間のめあてを引用する	【思考力・判断力・表現力等】 ア (イ) ～～
	学 A3資料「4 題材計画」の三次の位置に記述した主体的な姿を引用する	【学びに向かう力・人間性等】 〇段階の目標
	配 A3資料「題材計画」の配慮的な内容に記載したすべての姿を引用する	〇〇学部 A (領域) 【知識及び技能】 ア (イ) ～～ <small>※3つの柱の内容の段階は必ず同じになる</small>

4 題材計画 (全 時間) ※資料末尾にA3別紙で記載

5 本時案 (全〇時間の▲時間目)

(1) 題目 明朝10.5P

(2) 本時のめあてと評価規準

生徒	観点別の本時のめあて	評価規準
A	知	
	思	明朝10.5P
	学	A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られたかどうかで題材終了後に評価を行う
	配	A3資料「4 題材計画」の配慮的な内容に記載した姿について、題材終了後に評価を行う

6 本時案 (全〇時間の▲時間目)

(1) 題目 \*グループ全体の本時で扱う主な指導内容と支援内容 + 投げかけ表現

例: 決めた仕方でするよさを考えたり、半製品のでき具合を見直したりしながら作業を進め、自分の担当する作業に取り組もう

※本時で学習する内容がわかるように、並列表現を用いてグループ全体の指導内容を包括した文言で記述

(2) 本時のめあてと評価規準

3 題材目標 ※「知」は知識及び技能、「思」は思考力・判断力・表現力等、「学」は学びに向かう力・人間性等、「配」は配慮的な内容を示している

題材目標	学習指導要領の扱う内容
<p><b>【知識及び技能】</b></p> <p>場面 (教材) + わかること + できた姿</p> <p>* 「わかること」は、目には見えない教科の指導内容やそれらを習得するために理解・実感する必要のある事柄</p> <p>* 「わかること」には、教具や教師の支援を手がかりにする段階 (目を向ける)、理解する段階 (わかる)、既に理解していることから新たなことを理解する段階 (気づく) の3つの段階があると捉える</p> <p>題材目標としてどこまでの到達をねらうかは十分に検討して設定する</p> <p>例: (教材の中で取り組む課題) をする時、…がわかり、▲▲する など</p> <p>* 「できた姿」は、その知識を習得したと判断するための生徒の姿</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <p>具体的状況 + 表出像</p> <p>* 具体的状況は、習得した知識及び技能を選択・適合したり、組み合わせたりすることで解決できる課題の仕組みや内容を具体的に示す</p> <p>* 表出像は、思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する生徒の姿</p> <p>例: ～～する時 (具体的状況)、…について考え、◆◆を判断し、★★する (表出像) など</p> <p><b>【学びに向かう力・人間性等】</b></p> <p>* 題材計画に、本題材で望む生徒の主体的な姿を具体的に記述する (後述の評価規準の欄を参考にすること)</p> <p><b>【配慮的な内容】</b></p> <p>* 題材計画に、本題材で指導する配慮的な内容を具体化した生徒の姿を記述する</p>	<p>①対象者の学習指導要領の教科の扱う段階と目標の文言を引用する</p> <p>②【学びに向かう力・人間性等】については、各段階の目標が設定されているため、それを引用する</p> <p>小学部3段階「～～」</p> <p>③【配慮的な内容】については、学習指導要領の【知識及び技能】【思考力・判断力・表現力等】の内容と【学びに向かう力・人間性等】の目標のうち、該当するもののみを引用する</p> <p>記述方法や文字そろえの位置は、 (例) イ④～～ ～～ イイ (ア) ～～ ～～ というように統一する。</p>

4 題材計画 (全 時間) 別紙参照

5. 本時案 (全〇時間の▲時間目)

(1) 題目 \*グループ全体の本時で扱う主な指導内容と支援内容 + 投げかけ表現

例: 決めた仕方でするよさを考えたり、半製品のでき具合を見直したりしながら作業を進め、自分の担当する作業に取り組もう

※本時で学習する内容がわかるように、並列表現を用いてグループ全体の指導内容を包括した文言で記述

(2) 本時のめあてと評価規準

生徒	観点別の本時のめあて
A	知 場面 (個別の教材) + わかること + できた姿 ← 題材計画の本時に該当する時数の文言を引用
	思 活動の具体的状況 + 表出像 ← 題材計画の本時に該当する時数の文言を引用
	学 左記参照 (中央揃えとする)
	配 左記参照 (中央揃えとする)

□■□■□■□■□■□■□■□■□■

**(3) 場面設定と準備物**

場面設定	意図と工夫点
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">図を載せる</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">明朝10.5P</div>

□■□■□■□■□■□■□■□■□■

**準備物**

写真や絵を載せる	写真や絵を載せる	写真や絵を載せる
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">写真や絵を載せる</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">写真や絵を載せる</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">写真や絵を載せる</div>
教具名 意図と用途	教具名 意図と用途	教具名 意図と用途
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">明朝10.5P</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">明朝10.5P</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">明朝10.5P</div>

□■□■□■□■□■□■□■□■□■

**(4) 展開** □■□■□■□■□■□■□■□■□■ ※資料末尾にA3別紙で記載

**(2) 本時のめあてと評価規準**

生徒	評価規準
A	<p><b>知</b> *場面、作業量、試行数と成功数、支援の有無などの具体的な姿を記述</p> <p><b>思</b> *対象者が考えたり、判断したりした結果、その場面で表れてほしい知識及び技能のめあてとつながりのある生徒の姿を記述</p> <p>各場面で想定される『粘り強く取り組む』側面、『学習を調整する』側面をどちらも満たせるように別紙「4 題材計画」に記述した主体的な姿の中から本時に関わるものを想定する</p> <p>※「学習を調整する」とは、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤すること</p>
主	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="font-size: small;">② 自らの学習を調整しようとする側面</p> </div> <div style="font-size: small;"> <p>自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない</p> <p>※学習指導要領 学習評価参考資料より</p> </div> </div>

**(3) 場面設定と準備物**

場面設定	意図と工夫点
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           座席の配置、作業場の機器、主な活動場所、材料等の配置を図で示す         </div>	

**準備物**

※使用する道具や材料、教具、治具などのうち、説明を加えておいた方がわかりやすいものや子どもに応じて特に工夫したものを示す

教具名： ←生徒につけたい力や使い方、作業活動がわかるような教具名をつける

意図と用途

**(4) 展開 別紙「(4) 展開」参照**

**おわりに**

- この授業(単元、題材)は、
- 自立と社会参加に向けた本人・保護者・教師が思い描く生徒の将来のために必要な力を身につけられる学習です
  - 生徒が主体的に活動し、自ら学び、表現し、認められる学習活動になっています
  - 指導を適切に評価・改善でき、生徒の学びの過程を重要視しています

4 題材計画

生徒			一次		二次			三次	
	時数								
A	知識・技能	場面							/
		わかること							
		できた姿							
		配慮的に扱う内容							
	思考・判断・表現	具体的状況							
		表出像							
	主体的な姿	粘り強さ 学習調整							
	改善の重点	主体的							/
		対話的							
		深い学び							

※「学びに向かう力・人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」の項目で観点別学習状況の評価のみを記載する。個人内評価をする部分については、授業の振り返りや個別の教育支援計画等で実施し、今後に反映することとする

## 記述の視点

□毎時すべて分けて記述する必要はない。それぞれの項目の高まりが見えるように段階的に記述。

生徒			一次	二次				三次		
			時数							
A	知識・技能	場面	←教材の学習活動の中で取り組む個別の教材(課題)を記述							
		わかること	←「場面」と「できた姿」を踏まえ、習得する知識を記述							
		できた姿	←知識を習得していれば表れると考えられる子どもの姿を記述							
		配慮的に扱う内容	←教材の中に含まれる「配慮的な内容」を具体化した子どもの姿を指導するおおよその位置に記述							
	思考・判断・表現	具体的状況	←作業内容や条件などを「～～する時」の表記で記述							
		表出像	←思考・判断・表現の順序に沿って、考えること、判断すること、その結果として表出される姿を「・・・を(について)考え、◆◆を判断し、★★する」などのように記述							
	主体的な姿	粘り強さ	←学びに向かう力・人間性等に関する項目 題材における姿の変容を見取っていくために、動詞の現在進行形(例:書こうとしている、操作しようとしている など)ではなく終止形(例:書く、操作する など)を用いて目に見える姿を記述する(個人内評価をする部分については、授業の振り返りや個別の教育支援計画等で実施し、今後に反映する)							
		学習調整	先述のように、粘り強さと学習調整は独立したものではない。そこで、学びに向かう主体的な姿を「粘り強さ」「学習調整」それぞれの要素の強さと表れると予想される題材の位置で書き分け、末尾に表れてほしい学習活動の頭文字に囲み線を加えて記述する(例: 囲み線 習 など)							
	改善の重点	主体的								/
		対話的								
深い学び										

□習得場面を主に展開(2活)場面と捉える

□知識を伴って技能的な姿が生じる学習活動の計画だけでなく、対象者の実態に応じて、技能的な活動を反復することを通して、教科の知識を習得する学習活動も計画してよい(わかって→できる or できて→わかる)

□配慮的に扱う内容を指導する題材の位置については、その他の内容の指導との比重を考慮して検討する

□表出場面を主に発展(3活)場面と捉える  
 □題材の中で、細分化して配列した知識を習得すると考えられる(～がわかり となる段階)題材の位置で、その知識を活用して思考・判断したり、題材の中で2つ目以上の知識を習得することになると考えられる題材の位置で、それらを選択・適合、組み合わせたりする必要性のある学習活動を計画する  
 □習得したすべての知識及び技能やそれらと前題材までに習得している知識及び技能を選択・適合、組み合わせたりする活動に繰り返し取り組んだり、「二次」とは異なる状況の中で習得したすべての知識及び技能を選択・適合、組み合わせたりする必要性のある学習活動を「三次」に設定する

思考・判断・表現の過程  
 □物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程  
 □精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程  
 □思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

□「授業改善のための視点」という立場から、題材の進行に伴い、改善の重点として必要な項目に○を記入する

